

明連川と総合学習補足説明資料

(株)フジタ建設コンサルタント 岸村 憲作

1. 明連川における住民参加の経緯

吉野川水系明連川における住民参加は、平成 12 年度地域とつくる土木モデル事業としてスタートした。住民参加の形態としては、行政区駐在委員・小中学校長・小中学校 PTA 会長・福祉施設関係者・民間有識者・穴吹町役場等による意見交換会を実施してきた。

平成 12 年度には 4 回、平成 13 年度には 2 回の意見交換会を実施してきたが、平成 12 年度の第 1 回意見交換会では参加者 17 名を集めたものの、平成 13 年度の第 2 回意見交換会では参加者が 7 名に減るなど、事業に関する広報が課題として浮上してきた。

2. 三島中学校との連携の経緯

平成 14 年度からは意見交換会を年 1 回に減らし、改めて事業広報に取り組むこととなった。学識経験者（徳島大学山中教授・上月助教授）の助言を参考に、事業に対する関心層として明連川に近接する三島小中学校の生徒たちに着目した。三島中学校では、1 年生を対象に「環境」をテーマにした総合学習に取り組んでいたことから、明連川を身近な環境学習の素材と捉え、公共事業と連携した総合学習を実施して頂くこととなった。

平成 15 年度には、総合学習を通じて植栽計画づくりを行った。現地調査・植栽計画・模型づくり・植樹祭と調査から計画、施工までの一連の流れを体験してもらうことができた。平成 16 年度には、ピオトープ体験区間の整備キャッチフレーズ・イメージづくりを行った。昔の明連川をテーマにした調べ学習から整備イメージづくり・整備計画の作成までの一連の流れを体験してもらうことができた。植物調査及び植樹祭では、植物の専門家として森本康滋先生をゲストティチャーに迎え、明連川の河川環境や潜在自然植生に関する授業を受けた。

なお、計画内容の確認は総合学習との連携に加えて、全世帯アンケート・意見交換会により実施している。

3. 官民学の連携体制

明連川では「地域との連携」、「自然環境との共生」に重点を置いた川づくりを進めている。事業実施に際しては、自然環境・水質・水理・合意形成等の技術的課題が含まれることから、学識経験者より適宜、助言を頂いている。「地域との連携」、「自然環境との共生」といったテーマは未だ技術的知見が少ないことから、事業による効果や影響を確認しながら、官民学の連携体制を確立している。

【助言を頂いている学識経験者】

- 水理学 : 岡部教授（徳島大学）
- 水質・住民参加 : 上月助教授（徳島大学）
- 植物 : 森本先生（エコロジーの森を創る会代表）
- 住民参加 : 山中教授（徳島大学）

4. 今後の展望

三島中学校との連携により、活き活きとした事業広報が実現し、地域住民の明連川に対する関心も向上しつつある。今後、この流れをいかに地域住民による主体的な参画へと導いていくかが課題である。

（以上）